



第10号

新川水と里たより

新川農林振興センター

当センターのホームページは下記URLから
http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1630/index.html

農業農村整備広報・広聴連絡会

〒937-0863 魚津市新宿10-7
電話(0765)22-9137【指導課】

農道における耐震化工事の取り組み 落橋防止対策工事について 農道保全対策事業 新川第2地区

■新川広域農道

新川広域農道は、近代化農業の実現や農産物物流の効率化による農村地域の活性化を目的に昭和46年から平成7年にかけて、滑川市栗山地区から朝日町道下地区の間の穀倉地帯を横断的に繋ぐ幹線農道として整備されました。現在では農産物に限らず、他産業の物資輸送や、農村地域の生活道路として活用されることで、地域の過疎化抑制に大きな役割を果たしています。

しかしながら、供用開始から30年以上経過する区間も多く、道路機能の維持向上が以前から課題となっていました。そこで、平成19年度に農道を維持管理する市町と協力し、農道保全対策事業新川第2地区の事業計画を策定しました。事業では、①橋梁の落橋防止対策、②急勾配区間などへの消雪設備設置、③破損の著しい路面の改良を実施



大型の鎖で連結した落橋防止対策工法
(黒部市 布施川橋)

することとし、平成20年度から順次対策を進めています。

■落橋防止対策

中でも、落橋防止対策は、近年各地で発生した大地震の被害状況を教訓としたものであり、大地震の揺れによつては、橋の桁(上部工)が耐えきれずに落下したため、下にある河川・道路などの施設機能が損なわれ多くの人命が失われました。また、橋自体の復旧に期間を要したことにより、物流が停滞し、被災地の復旧にも大きな影響を与えました。これら被害を調査検討した結果、橋梁施設の重要性が改めて確認され、橋梁の落橋防止基準の改定が行われました。

この基準改定を受け、全国の重要路線で、新基準に基づく橋梁の落橋防止対策が進められています。前述の通り新川管内の重要路線である新川広域農道においても、橋長15m以上の16橋への落橋防止構造の設置に取り組んでいます。

■落橋防止工事

工事の具体的な内容では、橋げた(上部工)と橋台・橋脚(下部工)、もしくは、隣り合う橋げた同士を、PCケーブルや大型の鎖で連結させる工法、かかり幅(橋げたが橋台等に乗っている部分の幅)を増大させる工法、橋台橋脚に垂直方向の突起(出っ張り)を設け、橋の揺れ幅を制限する工法などがあります。橋げたが鋼材(金属)で造られている場合は、橋げたに容易に穴が開けら

れるため、ケーブルや鎖による連結工法が用いられていますが、コンクリートで造られた桁では、かかり幅を増大することなどにより対応しています。

昨年度中までに14橋の対策が実施済みであり、今年度施工予定の2橋の対策を終えれば、新川広域農道の落橋防止対策は一応の完了となります。落橋防止構造は、橋の下にあり、なかなか日の目を見ることは無い施設ですが、大地震発生時には、橋げたを支える非常に重要な構造物です。

また、工事中は、近隣住民や農道通行者の皆さまに通行制限などに協力して頂きました。今後は、平成24年度の事業完了を目指し、残る消雪設備の設置や、路面(舗装)の補修を進めますが、これらの工事においても通行規制を行うこととなります。今後も何かと

田んぼの生き物調べin小山合川の開催

夏休みに親子で古里の自然にふれあう!!

平成23年7月30日(土)に朝日町殿町地区の小山合川で富山県農村環境創造基金事業による「田んぼの生き物調べ」を開催しました。



たも網などで採取する参加者

ご不便をお掛けしますが、新川広域農道が、これまで以上の役割を果たし、地域の活性化に役立つため、重ねまして皆さまのご協力をお願いいたします。

【農村整備課 農地整備第二班】



消雪設備の設置
(黒部市 阿古屋野トンネル付近)

説明して観察した後、元の場所に放流しました。また、これらの生き物が棲む小山合川の水质を知るために水温、PH(水素イオン指数)、COD(化学的酸素要求量)を測定しました。

活動の様子は、新聞報道のほか、テレビ番組において、子どもたちの夏休み中の活動として放送されました。



連絡先 TEL 0765-22-9138

【指導課 指導班】



学芸員の説明を熱心に聞く児童たち

土地改良区紹介

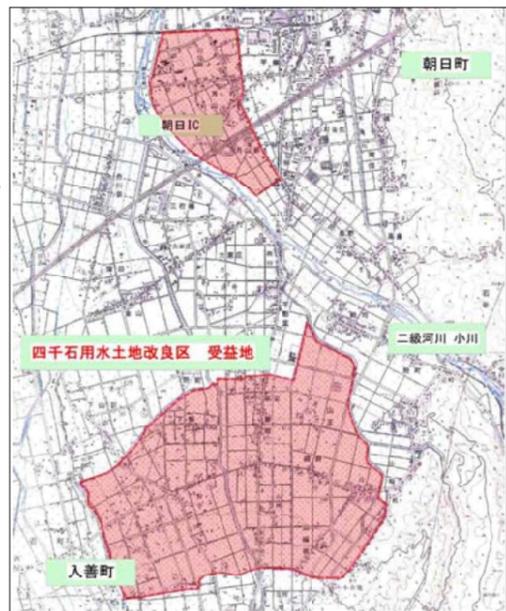
四千石用水土地改良区

四千石用水の源は、壮大な黒部峡谷からの豊富な清流で、愛本地先の黒部川から取水し、黒東合口用水を経て四千石用水路に至っています。

当土地改良区の受益は、入善町、朝日町の二町に跨り、舟見野台地の下流部と小川右岸の一部を併せて494haであり、組合員は現在657名となっています。

今からおよそ260年前(寛延元年の頃)、今の野中地区一帯を善万野と称し、広漠な荒野で灌漑用水がなかったため、加賀藩に黒部川から水を引く案を立て、2月26日から用水開削工事に着手しました。ところが、翌年になっても水が上がらず、農民が諦めかけた時、西中の持福院というお寺の院主の枕元に二晩続けて神様が現われ、「私は、中の口(現在の墓の木)の松の下に埋まっている水神である。私を掘り上げれば水が流れるだろう。」とお告げがあり、院主がその場所を掘ったところ、寛延2年6月21日に初めて通水したそうです。これが今日の四千石用水の前身で、この水神は西中神明社の神様と合わせて合祀されています。以来、この通水式の日(6月21日)と着工の日(2月26日)を四千石用水の祭日と定め、近年では、6月21日を7月21日と改め、西中神明社において年二回の祈念祭が行われています。

今後は、毎年発行している『土地改良区だより』を通して農業用水が持つ



多面的機能の啓発普及を図り、土地改良施設や土地改良区の役割に関するPR等につとめ、地域住民が安全に暮らせるよう施設の維持管理に努めてまいります。

【会計主任 金森富子】

新規地区紹介

経営体育成基盤整備事業 滑川東部2期地区

今年度から平成28年度までの6年間で用水路の改修と農道の拡幅を行い農業経営の安定化と農業用水の安定供給を図ることを目的として経営体育成基盤整備事業滑川東部2期地区が着手となりました。

当地区は滑川市の南東部に位置し、早月川左岸側に開けた標高が101〜242mの急峻な台地を中心としています。

地域内の用水路は主にパイプラインで昭和48年から昭和51年のほ場整備事業に伴い施工されたもので、築造後約30年以上が経過し、用水管の摩耗・破損や継手部・制水弁などのほか各田への給水栓にも老朽化による漏水がみられ、水管理に支障をきたしています。



四千石用水路の流下状況



滑川東部2期地区の眺望

今年度は測量設計を行い来年度以降順次着工していく予定です。

投稿記事

自然災害と自然現象

3月11日に発生した東日本大震災の復興支援として、当センターの御前主任を含む農業土木技術者3名が8月1日から2週間岩手県に派遣され、災害復旧に向けた取り組みに尽力されたところとです。また、9月からは宮城県にも農業土木技術者が派遣されています。

東日本大震災の翌日に長野県北部で大きな地震があったほか、平成19年には能登半島地震、新潟県中越沖地震が起き、隣県では激甚災害の指定を受けるほどの大きな災害が発生しています。幸い富山県では地震による大きな災害は発生していません。

一方、近年では異常気象による豪雨災害が全国各地で頻りに発生しています。富山県も例外ではなく3年前には南砺市で豪雨災害が発生し、甚大な被害を受けています。

地震、豪雨等による自然災害の多くは、被害の直接的な原因が自然現象であっても、人為的な要因によって被害が大きく左右されます。防災計画を立て、適切な危機管理がなされていれば被害の拡大を防ぐことができます。

7月1日の国民安全の日に関係機関の方々とともに管内の基幹的な老朽ため池や県が管理する地すべり防止施設の一斉点検を行いました。災害の発生防止を図るため、日頃より施設の点検等を行うことが肝要であります。

地震、豪雨等による災害がなければ、それはただの自然現象でありません。

土地改良施設を管理されております関係者の皆様方には、災害が起きないように、また、被害を最小限に止めますよう、より一層の施設の良好な管理に努めて頂きますようお願い申し上げます。

【技術次長 新谷 隆】

災害復旧派遣 東日本大震災による被災地(岩手県大船渡市)

去る8月1日から12日まで、被災地の復旧、復興に少しでもお役に立ちたいという思いで、岩手県大船渡農林振興センターに行ってきました。応援業務は、地震、津波により被害を受けた田畑、用排水路、農道の災害復旧事業の査定設計書の作成を行うものでした。幸いにも、気候もそんなに暑くなく、快適な環境の中で作業を行うことができました(余震は毎日ありました)。震災から5カ月近くが経った後でも、ガレキの処理が進まず、3階建のアパートの高さぐらいまで、ガレキがうずたかく積まれた状態でした。

被災地の復旧、復興にはまだまだ時間がかかると思われ、これからも息の長い支援が必要と感じました。

【農村整備課 御前 武志】



ガレキの処理が進まない状況

イベント情報

作品募集

◎「第23回 富山県農村振興技術連盟写真展」
テーマ『伝えます。とやまの水』

■募集期間

・12月2日(金)まで

■応募・問合せ先

・新川農林振興センター

農村整備課 池田

TEL 0765-22-9141

展示案内

◎「第7回 とやまの棚田写真展」

■入賞作品の巡回展示

・魚津市役所1Fロビー

10月4日〜18日

・黒部市国際文化センターコラール

10月18日〜11月1日

・滑川市民交流プラザ

11月1日〜17日

・朝日町ショッピングセンターアスカ

11月17日〜29日

・入善まちなか交流施設うるおい館

11月29日〜12月13日

編集後記

農業農村整備に関する広報、広聴活動の一環として始まった本紙も2年目を迎えました。引き続き、皆さまへの情報発信や話題を共有するツールとして、より良い紙面の作成に努めて参りたいと思っております。今後ともよろしくお願ひします。【七澤】